MOUNTAIN BAND-AID

奨励賞

大塚　竜也（おおつか たつや）
千葉工業大学　工学部　建築都市環境学科

安心して眠れること。当たり前のこと。

人の生活が営まれる場は、建築や土木により自然環境から守られている。

近年では防災意識も高まり、地層調査、土砂災害や洪水ハザードマップの作成それに伴う土木工事などが行われている。

本提案の敷地である横浜市保土ケ谷区岩井町も平成14年土砂災害危険箇所とされている。

しかしながら本提案の敷地のような、北側斜面という不立地のために生じたまばらな住宅地では、多大な費用や労力がかかる土木による安定工が行われない。

しかしまばらと言えども、確かにここ人の生活はある。

本提案では大規模な工事が必要だが、使用頻度や目に見えた利益がない土木に、使用頻度が高い公共建築を付随させることにより、普段人に利用されることのない土木が人に使われるという新しい価値を生み出す。

新しい土木のかたち。新しい公共建築のかたち。

講　評

詳細な地盤調査に基づいて地滑り抑制杭の打設、アースアンカーやロックアンカーを用いた地盤の安定や土圧壁の構築、雨水等の表面水の適切な処理、等が、一般的にな地滑り対策として行われている。これらの地滑り対策は、公共の土木工事として山間地域の道路側の斜面等で行われ、民間の住宅開発手法の中では宅地のコストアップに繋がり、積極的に行われることは少ない。また、適切な工事が行われず、宅地の地盤沈下や崩壊の原因となることも多々報告されている。

この作品は、地滑り地域のために残された傾斜地の宅地開発を、公共の土木工事と組み合わせて建築的なスケールで提案している。傾斜地の通りを公共工事として地盤の安定を図りながら、擁壁に高さや形状に応じた公共の空間として多様な使い方を提案していることも興味深い。不安定な傾斜地の宅地開発に、新たな手法の積極的な提案として十分評価できる作品である。更に、地盤安定のためには欠かせない、表面水の処理に関する宅地のあり方も併せた提案があれば実現性が増すものと期待できる。

（審査委員：古川 洋）